

## 戦争と国家、そしてナショナリズム

福田 宏 hfukuda@juris.hokudai.ac.jp

<http://hfukuda.cool.ne.jp/hokudai04a/>

(法学部 321 号室・706-3784)

(相談時間： 6/24(木) 15 時～17 時)

### I. 第 2 回レポート締切は、6 月 25 日(金) —— 7/2(金)の提出も可

(最終レポート締切は、7 月 27 日(火)頃を予定)

### II. 配付資料 —— 次回使用予定

- ・ 山内昌之「イラク復興のシナリオと日本の選択 —— 『大中东』構想と自衛隊の役割」『中央公論』 2004 年 7 月号, pp.92-103.
- ・ 篠田英朗「人質事件で露呈した日本の国際平和協力の限界」『論座』 2004 年 6 月号, pp.36-47.
- ・ 中西輝政「国際テロ組織と『次なる試練の時』」『諸君!』 2004 年 6 月号, pp.36-49.

### III. これからの予定

- ・ 6/25 「論壇」を題材とする自由討論 —— 「何を為すべきか」
- ・ 7/2 講義 (パレスチナ問題について)
- ・ 7/9 「人道的介入」と「正戦」

テキスト：最上敏樹『人道的介入』岩波新書, 2001 年. 6 月下旬入荷予定.

- ・ 7/16 講義 (ナショナリズムの功罪 —— 日本の事例を交えながら)
- ・ 7/23 最終回 (未定)

### IV. ユーゴ紛争は本当に「複雑」なのか？

「新聞の編集者たちはユーゴスラヴィアが嫌いだ。なぜなら、複雑すぎるからだ」

ミーシャ・グレニー

#### 1. ユーゴスラヴィア入門

「七つの国境、六つの共和国、五つの民族、四つの言語、三つの宗教、二つの文字、一つの連邦」

- ・ 国境 —— イタリア、オーストリア、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、アルバニア、ギリシア
- ・ 共和国 —— クロアチア、スロヴェニア、セルビア、マケドニア、モンテネグロ、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ
- ・ 民族 —— セルビア人、クロアチア人、スロヴェニア人、ムスリム人、マケドニア人、(アルバニア人)
- ・ 言語 —— セルビア語、クロアチア語、スロヴェニア語、マケドニア語、(アルバニア語)

#### 2. クロアチアとスロヴェニアの独立

1990.8-1991	湾岸危機
1990.10	ドイツ統一
1991.6	スロヴェニアとクロアチアの独立宣言
1991-1992.1	91 年春頃から第 1 次クロアチア戦争 (1995.5-8 第 2 次戦争)
1991.6-7	スロヴェニア戦争「十日戦争」

1991.12.23	ドイツがスロヴェニアとクロアチアの独立を単独承認
1992.1	ECによるクロアチアとスロヴェニアの独立承認
1992.5	スロヴェニアとクロアチア、ボスニアの国連加盟

- ・ヨーロッパは何故クロアチアとスロヴェニアの独立を承認したのか？
  - ドイツ統一のユーフォリアとゲンシャー外相の暴走
  - アメリカに対するヨーロッパの対抗心？
  - カトリック勢力のクロアチア、スロヴェニアに対する親近感

### 3. ボスニア紛争

1992.2.29-3.1	ボスニアで独立に関する国民投票
1992.4	アメリカ、ECによるボスニアの独立承認 —— 戦闘が本格化
1992.6 末	ミッテランのサラエヴォへの「冒険飛行」、「人道援助」の開始
1992.7 後半	サラエヴォでのスナイパー活動活発化、3年以上継続
1993.1	クリントン新大統領 —— ブッシュから交代
1994.1	明石康が旧ユーゴ問題担当国連事務総長特別代表に就任
1994.2	サラエヴォの中央市場（青空市場）砲撃事件
1995.7	ボスニア、スレブレニツァの悲劇
1995.11	デイトン和平合意

- ・ボスニア・ヘルツェゴヴィナという土地

西ボスニアの町ヤイツェ（人口 3929 名、内カトリック教徒 1982 名、イスラム教徒 1644 名、セルビア正教徒 245 名、ユダヤ教徒 57 名。1895 年）

地理学者ハインリヒ・レナの観察（カトリック教会のミサ） —— 教会は広々としていて、天井も高いが、ベンチはあまりおいてなくて飾りもなく、まるでモスクにいるようだ。... 信徒は教会のむき出しの石の上にしゃがみ、ひざまずき、あぐらをかいて座る。... 皆そこではカトリック教徒を示す赤いターバンを脱ぐ。すると珍しいものが見える。つまり、皆イスラム教徒のように頭を剃って、真ん中だけ一房の髪を残している。弁髪のようにしている者もいる。中国とトルコの混淆！ さらにイスラム的なのは、司祭が聖変化の時に聖体顕示台を掲げると、信徒たちが額を床にこするつけることである。... 彼らに特徴的なことがまだある。彼らは入れ墨をしているのである。入れ墨の場所は、胸、前腕、手、時に額のこともある。その形は十字架のことが多い。... カトリックの司祭たちは、目に付きやすいところに十字架を刻印することで、イスラムへの改宗を困難にしようとしたのではないだろうか。... （大津留『ハプスブルクの実験』 pp.61-62）

- ・ルーダー・フィン（PR会社）の暗躍
- ・国民投票という「デモクラシー」、その「正しさ」
- ・一貫しないアメリカ外交 —— ブッシュ（父）とクリントン
- ・デイトン和平協定に見るヨーロッパ、アメリカ、ロシアの「メンツ」

#### 4. コソヴォ紛争 —— 「人道的介入」の正当性

1987.4	ミロシェヴィッチとコソヴォとの出会い
1989.3	セルビア共和国の憲法修正。コソヴォ自治州の権限縮小
1997.11	アルバニア系の「コソヴォ解放軍K L A」が警察襲撃
1998.9.30	ドレニツァ地区でアルバニア系住民約 30 名の虐殺遺体を発見
1999.1.16	ラチャクでアルバニア系 45 名の虐殺遺体を発見
1999.2	ランブイエ合意
1999.3.24	N A T O が空爆開始
1999.6.3	ユーゴが和平案受諾
1999.6.10	ユーゴ軍のコソヴォからの撤退開始、N A T O の空爆停止

- ・ミロシェヴィッチの転身 —— 共産主義者から民族主義者へ
- ・「コソヴォ解放軍K L A」とセルビア系警察との戦闘
- ・N A T Oによる空爆の正当性 —— 78 日間、約 34,000 回  
ブレア・ドクトリン(1999.4.29) —— 「正義の戦争」